

懐かしい日々の記憶がよみがえります。

川内東中学校の記録

鹿児島県薩摩川内市中村町



現在、ユーチューブで公開中です。校歌をバックに年代別の卒業写真が流れていますので、是非、あの日の自分や友達を探してみてください。

あゆみサークルが始まりました。

老若男女問わずの参加型サークルです。

5月11日 初会合

郷土史研究家の茶園三洋さんに平佐東地区の歴史の概要を解説していただきました。



7月10日 日帰り研修会

美山の陶遊館に陶芸の研修に行きます。現在、コミセンの掲示板で案内中です。

ご参加をお待ちしております。

その他、皆様からのアイデアを基に活動していきます。いろいろなアイデアをいただけたら幸いです。

はんとけん体操 毎月第3土曜日開催



10月下旬

園芸教室

冬から春の花苗の育て方を園芸家に教えてもらいます。苗・土・プランター等は用意します。費用はかかりません。

第14回 平佐東レキバナ(歴史話)講話 (茶園三洋さん)

牛這(うしばい)祭りと生神(おいかみ)神社(2)

前回に続く”牛這祭りの追加”の内容です。

有水昭八郎さんにいただいた「楠元町生神神社『牛這祭』由来を紹介しますが、有水さんはこれは故江ノ口広男(汎生)さん(「平佐東校区の史跡めぐり」の発案者であり、平佐東校区・川内地区・県を代表する郷土史研究家)が作成されたものと教えていただいた。この由来書には、「牛這祭保存会」「牛這祭実行委員会」「楠元下・中公民会長」の三者が発行元となっている。

「由来」書の構成は、最初に「祭りの沿革(歴史)」、次に「生神神社」、そして「祭の式順」、最後に「牛這祭考」となっている。前回にはなかって内容をここでは取り上げます。

「祭の沿革」の最初に、この祭は楠元下・中公民会員(自治会員)を氏子とする「生神様」の神田を中心に繰り広げられるユーモラスな田園劇で、村一番の年中行事として、毎回2月1日(現在は原則として、2月第一日曜日)に村民挙げて、盛大に続けられてきました。とあります。

「生神神社」については、この神社はもともと、楠元”田の神”(楠元下)横(から入った道)の高台、字「宝岩」にあったのですが、昭和40年の台風で本殿が倒壊したため「南方神社」(楠元中)に合祀されました。生神神社は地元では「おいかみさま」または「よかんどん」「いきがみさま」と呼んでいますが、「作神」(さて、どんな神?)であること以外、この神様の「正体」や「来歴」はいっさい不明とある。

「祭の式順」では、合祀先の南方神社での神事後、拝殿脇の楠元町農業就業センターで宴客、氏子を交えての盛大な祝宴となる。ひと通り酒が回り氣勢が上がると「オセロ」の歌を唄い、各々(おのおの)が天井からつるしてある藁(わら)の束から藁を抜いて首に結びます。その後、神主さんを先頭に、高さ5メートル程もある「親奴」2本(公民会長)が続き、2メートルの「子奴」(氏子全員)の集団がこれに続いて、北方約1キロの所にある「生神様」の神田に向かう。この神田で祭のハイライトである「稲作の生産課程を模した」即興劇が、衆目(=多くの人が見ている)の中ユーモラスに繰り広げられます。この劇の様子は前回紹介した通りなので省略します。ただし、観客にふるまわれる「赤飯」は、有水さんによれば、「ひとぎ」という「米粉を使ったもの」と訂正された。そして、最後に有水さんは次の話で締めくくられた。この祭は平成24年が最後になった。この時の様子はMBCテレビが取り上げて放映してくれた。放送局のスタジオに向かいインタビューを受けたが、私達のころは牛の後を子どもたちがついて回った(時代だ)が、今はトラクターの後をシラサギがついてくる時代で様変わりしているから…、と。



楠元町の南方神社



1人 片道 300円

なるべく乗り合わせでの、ご利用をお願いします。

予約や利用の仕方など、詳しく聞きたい方は、コミセンまで連絡ください。



平佐東地区
コミュニティセンター

5月 25日(金) 地区防災会議

6月 7日(金) 福祉部会

15日(土) はんとけん体操

☆ 6月慰霊碑掃除当番 ・・戸田自治会